

Community Medicine
— 地域医療の架け橋 —

2025年春号

第 83 号



地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

新年度のご挨拶

病院長 松本 圭吾



令和7年度の始業にあたりご挨拶を申し上げます。

世の中は、気候変動ベースの災害の多発、急激な物価高に加え、トランプショックで世界の政治・経済がどうなるか身構える状況になっています。医療界においても、ポストコロナ、少子高齢化・人口減少、働き方改革が加わり、まさに激動の時代の中にあります。そのなかで当院は地域の医療を支えるべく下記の3つを運営の基本としたいと考えております。

1. 地域医療支援病院であること

40年前に人口が激増していたこの地域の救急を診る総合病院として当院が移転してきた経緯があり、北区の本区地域の地域医療支援病院として今後も地域の救急を受け入れ、紹介・逆紹介を診療の基本としてまいります。

2. 教育病院でありたい

医師教育については、基幹型臨床研修指定病院、専門医修練施設として研修医や専攻医を受け入れており、看護師や他の職種についても多くの学生実習を受け入れています。また、院内のみならず地域に向けての研修にも力を注ぎたいと思っています。教育は教えられる側のみならず教える側の成長にもなり、病院のレベルアップや機能の維持には最も重要な事業の一つと考えております。

3. チーム医療を強化する

病院の事業の中軸は急性期医療であり、救急・手術・周術期管理などチームで取り組まないと成り立たない領域が数多くあります。昨今の働き方改革のなかでチーム医療の一環としてのタスク・シフト/シェアが重要とされています。当院は JCHO グループのなかでも先進的に看護師の特定行為研修を受講しており、臨床現場で実働するべく取り組んでまいります。

今春、病院には、新規入職者は46名、更に、法人内での異動による転入14名を入れると60名の新たなメンバーが加わることになります。このフレッシュな力とともに地域医療に邁進したいと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。



近隣医療機関のご紹介

増田整形外科

〒651-1203 兵庫県神戸市北区幸陽町1丁目5番地
TEL:078-583-8188

診療科目：
整形外科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～11:30	●	●	●	●	●	●	×

休診／午後、日曜日、祝日



増田 節夫 院長

平成30年7月に花山で開業した増田節夫です。約40年前にこの地で開業した亡き父、増田重夫の後を継承いたしました。幼少時を過ごしたこの地域で引き続き働けることをありがたく思っております。神戸中央病院におかれましては重症で手術が必要なケース、他科疾患、CTやMRIが必要なケースなど母校(兵庫医科大学)の先輩である岡山整形外科部長を始めとする医師の方々、地域連携室の方々に暖かい、迅速な対応を頂いています。当院は整形外科疾患による疼痛、外傷に可能な限り対応しています。マンパワー等の関係で診療時間は限られますが今後ともよろしくお願いいたします。



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 神戸中央病院 第21回 市民医療セミナー



認知症の症状と治療～新薬の情報をふまえて～

精神科 診療部長 有井 一郎

この度はセミナーに参加いただき、ありがとうございました。

認知症の症状と治療と題して、この1年ほどで採用になった新規薬にも触れながら話させていただきました。ちょうどメーカーが作成していた資料を用いながら、30分の持ち時間に10枚のスライド使用と、余裕を持って分かりやすい内容にと考えながら準備はしたのですが、後半は時間がなくなりやや駆け足になった気がしています。それでも後に続いた方々の、ケアや福祉制度の講演と合わせれば、まあ何とか満足のいく内容になっていたかと思っています。早い時間から集まって頂いたスタッフの方々にも感謝いたします。

最後に講演で用いたメーカー資料(エーザイ)の表紙を示しておきます。



松本病院長ご挨拶



認知症の備えから認知症と診断された後のケアについて

認知症ケアチーム 地域医療連携室 入退院支援 副看護師長 大山まどか

この度は市民医療セミナーにご参加いただきありがとうございました。今年は最強寒波が到来しセミナー前日も大雪だったにも関わらず、多くの方に参加いただきましたことをお申し上げます。

私は、『認知症の備えから診断された後のケアについて』をテーマにお話しを致しました。具体的には、認知症発症に備え今からできること、自身が認知症と診断された時の対処方法、周囲の方が認知症と診断された時の対処方法について時系列に沿ってお伝えしました。なかでも、昨年度から施行されています『共生社会の実現を推進する認知症基本法』にありますように、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう認知症の方を含む全ての人々が相互に人格と個性を尊重し支え合うことの大切さをお伝えしました。

認知症は、加齢と共に誰にでもなる得る身近な病気だといわれています。だからこそ、本日お話しした内容を日々の生活に役立てていただけると幸いです。



相談コーナー



放射線科



ホール全体

第22回市民医療セミナー

知っておきたい、 消化器と関連疾患の知識

日 時：令和7年6月14日(土) 13時 開演
場 所：すずらんホール

新任医師紹介

まゆみ
眞弓あずさ：小児科



地域のこどもたちの健やかな成長のために、医療や検診で貢献できるよう、頑張ります。神戸市は初めての勤務で不慣れな点も多いと思いますが、宜しくお願い致します。

さかもとりゅうのすけ
坂本龍之介：整形外科



4月より赴任いたしました。地元である神戸の医療に貢献できるように精進致します。よろしくお願いいたします。

もりもと ひろき
森本 寛基：耳鼻いんこう科



4月より赴任いたしました。京都から地元である神戸・西宮に高校生以来に戻ってきました。お役に立てるよう精進致します。よろしくお願いいたします。

よりすみ みほ
頼住 美穂：内科



専攻医として4月より腎臓内科所属で勤務させて頂きます。地域に根ざした総合的な医療サポートができる医師を目指しています。よろしくお願いいたします。

やぶ そういち
八木 聡一：消化器内科



4月より消化器内科で勤務させて頂きます。内視鏡などで皆様のお役に立てるように頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

つちや かずあき
土屋嘉端明：内科・糖尿病内科



初めまして、糖尿病内科専攻医の土屋と申します。糖尿病は生活習慣病の中でも特に生活の質(QOL)に大きな影響を与える疾患であるため、患者様とのコミュニケーションを大切に、それぞれの方にあった治療を提案できればと考えています。よろしくお願いいたします。

まつだ たつき
松田 樹生：脳神経内科



京都府舞鶴市出身の松田樹生と申します。地域医療に従事することを念頭に初期研修をおこない、将来的にも地域に根ざした医療を目標にしています。何卒よろしくお願いいたします。

すずき たいせい
鈴木 大誠：整形外科



4月より整形外科で勤務させていただきます。主に骨折などの外傷において、地域医療に貢献できるように精進致します。どうぞよろしくお願いいたします。

さわだ ひでゆき
澤田 英幸：整形外科



4月より整形外科で勤務させて頂きます。昨年度までは兵庫医科大学病院で勤務しておりました。地域に寄り添った医療が提供できるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

ひらの たつひろ
平野 達大：消化器内科



この度、消化器内科で勤務させていただきます。専攻医2年目の平野達大です。出身大学は京都府立医科大学ですが、地元の神戸に戻るため、医師3年目から兵庫医科大学消化器内科学教室に入局しております。この度縁あって当院で勤務できることを、非常に有り難く感じています。当院でも新しいことに挑戦し、様々な経験を積みみたいと考えております。何卒宜しくお願い申し上げます。

やくしじ さえこ
薬師寺冴子：消化器内科



4月より消化器内科で勤務させていただきます。初めての神戸生活でご迷惑をおかけすることも多いと思いますが頑張ります。よろしくお願いいたします。

たかだ あかり
高田 明里：歯科口腔外科



このたび、歯科口腔外科に配属となりました。高田明里と申します。新たな環境で多くのことを学び、患者さまに寄り添い、地域医療に貢献できるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

研修医 (任期付)



やすだ たくみ
安田 拓生



かわぶち としき
河渕 敏暉



しゅう のぶあき
周 伸明



なかむら こうたろう
中村光太郎



やまお ゆきの
山尾優妃乃



うおずみ たかは
魚住 崇羽



メデイカル ライン

《医療機関向け》

眼科医員 岸本 和樹



糖尿病黄斑浮腫

糖尿病の眼合併症には、糖尿病網膜症をはじめ、糖尿病白内障、糖尿病角膜症、血管新生緑内障、糖尿病性眼筋麻痺など多くの疾患がありますが、この中で有名なのが糖尿病網膜症です。糖尿病腎症、糖尿病神経症とともに、糖尿病の3大合併症の一つで眼科以外の医師にもよく知られた存在です。糖尿病になると患者のすべてが糖尿病網膜症に罹患するわけではないですが、罹病期間が長いほど、またそのコントロールが悪いほど、糖尿病網膜症の発症頻度は増えていきます。そのため日本糖尿病学会では糖尿病網膜症などの合併症、進展予防の観点からHbA1cの目標値を7.0%未満としています。

糖尿病網膜症の一つとして糖尿病黄斑浮腫はすべての病期でみられるもので網膜の中心の黄斑と呼ばれる部分が浮腫を起こした状態のことを指します。2000年以降の研究では糖尿病黄斑浮腫は5.0～5.5%の割合で発症するとされています。症状は視力低下や中心がゆがんで見えるなどの症状です。診断は眼底検査、カラー眼底写真、光干渉断層計（OCT）などで行います。治療としては抗VEGF抗体硝子体注射、レーザー光凝固術、ケナコルトテノン嚢下注射、血糖・血圧管理などがあります。現在は様々な抗VEGF抗体硝子体注射の薬剤が発売されており、当院でも現在はアイリーアを始めルセンティス、パビースモ、ベオビュなどの薬剤が使用可能です。患者様の浮腫の状態によって薬剤を使い分けていきます。1回投与で有効な症例もあれば、何回投与しても効果が出ない症例があったり、薬剤を変えると投与間隔が延長できる場合もあるので薬剤の選択には十分な考慮が必要です。また視力をおびやかす糖尿病黄斑浮腫を伴うものに関してはより密な診察間隔が推奨されます。

退任医師のお知らせ

消化器内科：青野 颯太
消化器内科：藤原可奈子
内 科：久野ありさ
循環器内科：林 真也
耳鼻いんこう科：柴田 敏章

皮 膚 科：吉武沙哉香
整形外科：堀之内 豊
整形外科：大西慎太郎
整形外科：松前 雄大
外 科：小黒 厚

研 修 医：大山 裕之
松山 将成
山辻 麻衣
金 源
篠田 佑乃

米永 豊
植田 鉄馬
権藤 徹郎
新島ひかる

